看護師職能 I 委員会

委員長：中筋 知美

1. 活動方針及び活動目標

1) 地域包括ケアシステムを推進する病院看護師の役割発揮に関する課題発見・意見集約
2) 看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト/シェアに関する課題発見・意見集約
3) トピックスに対するタイムリーな情報収集・課題発見

2. 活動内容

実施項目 【開催場所】	内 容	開催日 等	参加者
定例委員会 【マルイトOBPビル】	・地域包括ケアシステムの推進における病院看護師の役割(病棟・外来機能)を考え、地域へ繋ぐための課題と好事例 ・看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト/シェアの実態調査をもとに、課題について意見集約と好事例	全8回	委員12名

3. 活動実績

実施項目 【開催場所】	内 容	開催日 等	参加者
合同委員会 (職能 I・職能 II・地域包括ケア) 【マルイトOBPビル】	・各委員会の活動内容や課題について知り、相互理解を深め、地域包括ケアシステム構築のための看護の役割を明らかにする。	7月14日 10月6日 1月19日 全3回	69名

【活動の概要】

看看連携の課題を明らかにするために、「地域で看護管理者が繋がる」「現場で繋がる」「仕組みで繋がる」「人材育成」について情報共有した。看護管理者は支部会や近隣施設での繋がる機会はあるがタイミングが難しいと感じている。現場や仕組みでの繋がりとしては、退院調整での合同カンファレンスの関わりや、退院時(後)同行訪問を活用している。電話でのやり取りは情報がタイムリーで互いの意見が反映され患者にとって現実的で有益な情報共有の機会となる。人材育成においては、コロナ禍での面会制限の影響もあり、病院看護師の「家族看護」に対するスキル低下の可能性がある中で、在宅の視点を持てる看護師育成が重要となる。急性期のみで完結するだけでなく、慢性期や回復期、地域の訪問看護の機能を理解し後方へスムーズに依頼することも役割機能の発揮に繋がる。更に、訪問看護師から病院へのフィードバックがあれば、退院調整の課題が明確になり人材育成にも寄与する。ACPについて、前段階(前の施設で)でどのような確認をされているのか、共有できていない現状がある。ACPの普及が不十分なこともあり、入院時には医師の意向が影響する場合もある。病院や施設でACPに初めて取り組むのではなく、行政や学校教育場面での普及促進が更に必要である。

4. 課題・その他

1) 急性期病院において、退院支援は「完結」を目標とするのではなく、後方へ「繋げる」ために、病棟・外来看護師の役割発揮が重要である。そのためには、各病院・施設・地域の顔の見える関係・連携が重要で、共有した情報が、タイムリーなものであるために、双方向で行き来できるシステム作りが必要である。意思決定支援やACP確認の場での情報を、詳細に繋ぐことも看護師にとって大きな役割であり、今後も職能 I・IIと協働して、課題を整理していく。
--

2) タスク・シフト/シェアの推進に向けて、ガイドラインの普及・活用が課題である。そのためには、病院・組織の考え方を組織全体に浸透させることが肝要である。しかし、どの職種も人材不足の状況下において、「やらされ感が高まらないよう」に、業務の効率化に向けた医療DXの活用や、医療・看護材料の見直しも喫緊の課題となる。引き続き、課題を整理し、推進に向けて取り組む。